

授業科目名	保育実習 I a	教員名	山下 愛実	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択
					小学校教諭	選択
科目番号	JIS202	配当年次	2年後期		幼稚園教諭	選択
					保育士	必修
授業形態	演習				こども音楽療育士	
単位数	2単位				情報処理士	
科目						
施行規則に 定める科目区分						
一般目標	保育の現場において学内で学んだ知識や技術を生かして、子どもと直接関わる中で、子ども理解や実習施設への理解を深め、保育の実際を体験的に学習する。保育に参加し、実習する保育所の保育の目標、保育所の一日の流れや乳幼児の発達過程を理解する。そして、養護と教育が一体となって展開される保育内容や、保育の計画や方法、観察・記録等について具体的に学ぶ。また、専門職としての保育士の役割と職業倫理について理解する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。 					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、学科のディプロマポリシーに掲げる「2. 教育者としての情熱を持ち、正しい倫理観と責任感を身につけている」「3.教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている」「4.教育に関連する事柄について、継続的・主体的に学ぶ学習能力を身につけている」「5.教育実践力を身につけている」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	2年後期終了後、学外の保育所に通い、おおむね10日間の実習を行う。実習内容は観察・参加実習とする。保育現場で子どもや保育士の姿に触れ、観察や関わりを通して保育所で行われている保育のいとなみを学ぶ。また、アクティブラーニングとして、実習に臨むにあたっての自己課題に基づき、自ら問いをもって意識的に実習に取り組むことに加え、実習記録を作成し、保育者との対話を通して、自身の子どもへの関わり方や保育者の援助の見方・考え方を捉える力を養い、主体的に学びを深める。					
履修条件・注意事項	保育実習 I a を実施するためには、実習実施条件（成績状況等）を満たさなければならない。また、事前・事後指導である保育実習指導 I を受講すること。					
授業計画	<p>主に、観察・参加実習とする。おおむね10日間の実習を通して、下記の事柄について学び、習得していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能（目標1） <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習する保育所の概要や保育の目標を知る。 (2) 保育所における子どもの生活や保育士の援助等の観察を通して、子どもの最善の利益を追求する保育所の目的・役割を理解する。 (3) 保育所の生活に主体的に参加し、一日の流れを理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通じた子ども理解（目標2） <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもを観察したり、関わったりするなかで興味・関心、子どもの発達段階を理解しようとする。 (2) 子ども一人ひとりの思いや発達段階に応じて関わろうとする。 (3) 実習日誌の作成を通して、自身の子どもへの関わりを振り返り、子ども理解を深める。 3. 既習の教科目の内容を踏まえた、子どもの保育及び保護者への支援（目標3） <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境を通じた子どもの生活や遊びの実態を理解する。 (2) 子どもの健康や安全への配慮を理解する。 (3) 家庭との連携や関わり方を理解する。 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等（目標4） <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育における計画の意義や内容を理解する。 (2) 全体的な計画と指導計画、評価について理解する。 (3) 実習日誌の作成を通して、省察を行い、実習中に得た気づきや経験の意味づけを行う。 5. 保育士の業務内容や職業倫理（目標5） 					

	<p>(1) 専門職としての保育士の業務内容について具体的に理解する。</p> <p>(2) 園内における職員の役割分担や保育士のチームワーク、協働について、体験的に理解する。</p> <p>(3) 子どもの人権、守秘義務の遵守、個人のプライバシーの保護等について具体的に学ぶ。</p>
授業外学修時間の確保について	毎日の実習の振り返りを実習日誌に記述し、実習施設に提出する。また、実習施設より課された課題を期日までに仕上げる。
学生に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設による評価を100%とする。 ・60%以上を合格とする。
テキスト	
参考書・参考資料等	<p>『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府 フレーベル館</p> <p>参考資料等：授業での配布資料</p>
担当者からのメッセージ	実習先との報告・連絡・相談を欠かさず、自分の判断で動くことのないようにすること。判断が難しい場合は、必ず実習園の実習担当、または養成校の実習担当に相談すること。責任感をもって行動されること、主体的に参加することで実習を通した学びを深められることを期待している。
オフィスアワー	毎週 金曜日 9:05～10:35 (メール等でアポイントを取る)
備考	